

今回のテーマは…

教育

デジタル社会に対応する プログラミング教育が始まっています!

いわて
県民計画
(2019~2028)

PICKUP

みんなで目指す岩手の将来像のための「いわて県民計画(2019~2028)」。10の政策分野から、今回は「教育」をピックアップ! 小学校などで本格化するプログラミング教育を取り上げます。



岩手の未来をけん引する人材の育成に向けて

人工知能などの技術が急速に進むデジタル社会では、IT人材の重要性が増えています。それに対応すべく、2020年度から小学校でのプログラミング教育が必修化されるなど、義務教育の場でもITについて学ぶようになってきました。

このような社会情勢の変化のなかで、「地域に貢献するものづくり産業人材の確保・育成・定着」を県民計画の目標に掲げ、さまざまな取り組みを進めています。今回はその1つ、岩手県立大学が行っている体験型教室「サイエンス・キッズ」の取り組みを紹介します。

取り組み

体験型教室「サイエンス・キッズ」 小学生がプログラムで ドローンを飛ばしてみた!

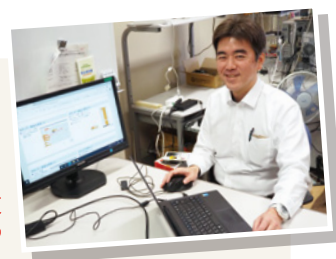
岩手県立大学ソフトウェア情報学部では、県内の小中高生、短大・高専生向けにさまざまな講座を開催しています。その中のひとつが小学生対象の体験型教室「サイエンス・キッズ」。ゲームやロボットなど楽しく学べる講座で、毎回大勢の小学生が参加します。中でも「ドローンを動かすプログラムを作ろう!」は、募集を開始するとすぐ、定員が埋まるほど人気があります。

講座を担当するのは准教授の小嶋和徳さん。「学内のドローンプロジェクトで『子ども向けにできることをやろう』という声が上がリ、講座が始まりました」と話します。

講座では全国の小中学校で使われているプログラミングツール「スクラッチ」を使い、小型ドローンを飛ばすプログラム作りにトライ。ドローンをどのように動

岩手県立大学 ソフトウェア情報学部
准教授 小嶋 和徳 さん

専門は画像認識系分野。情報通信技術(ICT)を活用する「スマート農業」の研究にも従事



かそうか、自分で考えた命令を組み合わせるパソコンで入力し、実際にそのとおり動いたときは、子どもたちから歓声が上がります。

「目的に向かって筋道を立てて考えるけれど、ゴールまでの道は幾通りもあり、途中で試行錯誤もする。そういった考え方を身につけるには、プログラミングは有効だと思えますね」と小嶋准教授は語ります。

プログラミング教育で養われる論理的思考力やコンピュータのスキルが、これからの時代を生きる子どもたちの大きな糧になることは間違いありません。



小学4年生~6年生対象。パソコンでプログラミングとドローンの基礎を学び、自動操縦を体験。アシスタントの大学生がサポートしてくれるので経験がなくても大丈夫!

岩手県立大学ソフトウェア情報学部 公開講座 実施例

サイエンス・キッズ (小学生対象)

[テーマ]

「0と1で何ができるかな」
「プログラミングをからだで感じてみよう!」など

サイエンス・ジュニア (中学生対象)

[テーマ]

「計算の速さの不思議と発見」
「プログラムと数学の同じ・違う」など

サマーセミナー (中高校生、高専生、短大生対象)

[テーマ]

「『スマート社会』の中の数学」
「最新の音声認識システム」など

今年度の開催は検討中のため、ソフトウェア情報学部ホームページで確認を。リモート開催の場合も。

岩手県立大学

検索

問い合わせ 岩手県立大学ソフトウェア情報学部 電話/019-694-2500